

学位論文要旨

学位論文題目 カタクチイワシ亜科魚類の分類学的研究
氏 名 畑 晴陵

インド・太平洋産カタクチイワシ亜科魚類 3 属（タイワンアイノコイワシ属 *Encrasicholina* Fowler 1938, カタクチイワシ属 *Engraulis* Cuvier, 1816, インドアイノコイワシ属 *Stolephorus* Lacepède 1803）の分類学的研究をおこなった。骨学的形態の観察を通じ、3 属の新たな標徴形質が確認され、これらの単系統性が支持される結果となった。さらに、各属の種単位での分類学的研究をおこなったところ、多くの新知見が得られ、タイワンアイノコイワシ属とインドアイノコイワシ属において、各種の学名との対応関係が見直された。例えば、従来シロガネアイノコイワシ（本研究における *E. heteroloba*）にあてられてきた *E. devisi* は *E. heteroloba* の新参異名であることが明らかとなった。また、従来 *E. heteroloba* があてられてきたミズスルルに適用すべき学名は、従来 *E. heteroloba* の新参異名とされてきた *E. pseudoheteroloba* であることが明らかとなった。また、これまで殆ど記録のなかった *E. oligobranchus* と *E. macrocephala* に関する再記載を行い、新たな分布域を確認した。また、3 新種の記載を行った。インドアイノコイワシ属に関しては、すべての名義種の分類学的位置づけを明確なものとした。

Whitehead et al. (1988)により、これまで *S. waitei* とされてきた種は *S. bataviensis*, *S. baweanensis*, および *S. waitei* の 3 種が含まれることが明らかとなった。また、*S. bataviensis* と *S. baweanensis* は *S. insularis* の亜種として、*S. oceanicus* とともに Hardenberg (1933b)によって記載された。これら名義種の分類学的再検討を行ったところ、*S. insularis* と *S. oceanicus* はそれぞれ *S. tri* の新参異名と有効種であることが明らかとなった。さらに、従来 *S. insularis* とされてきた種には、これまで *S. baganensis* の新参異名とされてきた *S. bengalensis* を適用すべきであることが明らかとなった。*Stolephorus baganensis* は亜種である *S. b. megalops* とともに Delsman (1931)によって記載された。本研究により、*S. baganensis* の有効性が確認され、*S. b. megalops* は *S. tri* の新参異名であることが確認された。Delsman (1931), Hardenberg (1933b), および Dutt and Babu Rao (1959)によって記載された各名義種のタイプ標本はすべて失われており、これらのネオタイプの指定を行った。また、従来 *S. indicus* に同定されてきた種は *S. baliensis*, *S. commersonnii*, *S. indicus*, および *S. insularum* の 4 種が含まれることが明らかとなった。これまで *S. commersonnii* を適用されてきたヤエヤマアイノコイワシには、*S. rex* を適用すべきであることが明らかとなり、また、本研究においてアフリカ東岸とマダガスカルに分布するものを、新亜種 *S. r. zephyrus* として記載した。また、そのほかの種に関しても再記載を行い、それぞれの有効性を確認したほか、2 新種の記載を行った。これらの結果として、タイワンアイノコイワシ属とインドアイノコイワシ属にそれぞれ 9 と 27 有効種を確認した。これらの結果に基づき、インド・太平洋のカタクチイワシ亜科魚類の携帯獲得の過程を議論した。派生的な種ほど、上顎が短くなり、体腹縁の稜鱗数が減少する傾向にあり、これらは遊泳生活への適応の結果と考えられた。